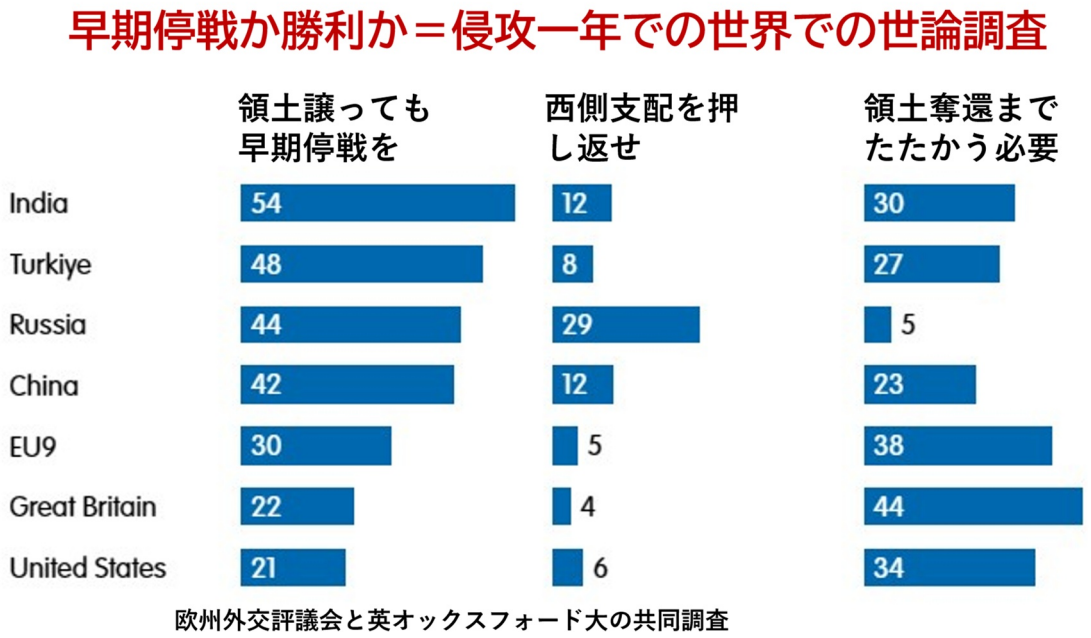
# 即時停戦か勝利まで支援かで割れる国際世論

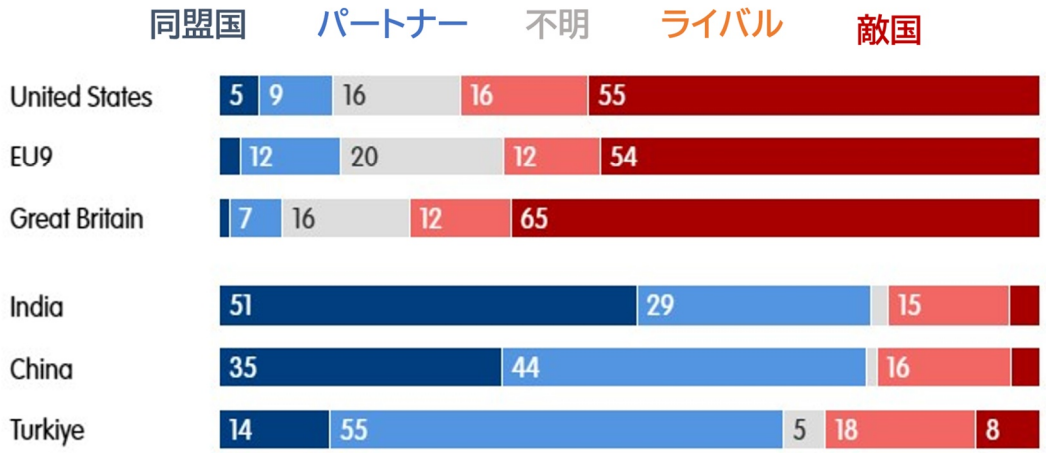
欧州外交評議会と英オックスフォード大が昨年 12 月から 1 月にかけて世界各国でおこなった世論調査の結果を紹介します。（田中靖宏）

これによると、米英など西側諸国では、多数がウクライナの勝利まで支援を継続すべきだとして団結を強めているのにたいし、そのほかの諸国では即時停戦と外交解決を支持している人が多数になり、世論に大きな隔たりがあることがわかりました。米英以外の非西側諸国では、ロシアに友好的な感情を持つ人が多数になっているとの結果がでています。サマリーは以下のサイトで参照できます。

United West, divided from the rest: Global public opinion one year into Russia's war on Ukraine – European Council on Foreign Relations (ecfr.eu)

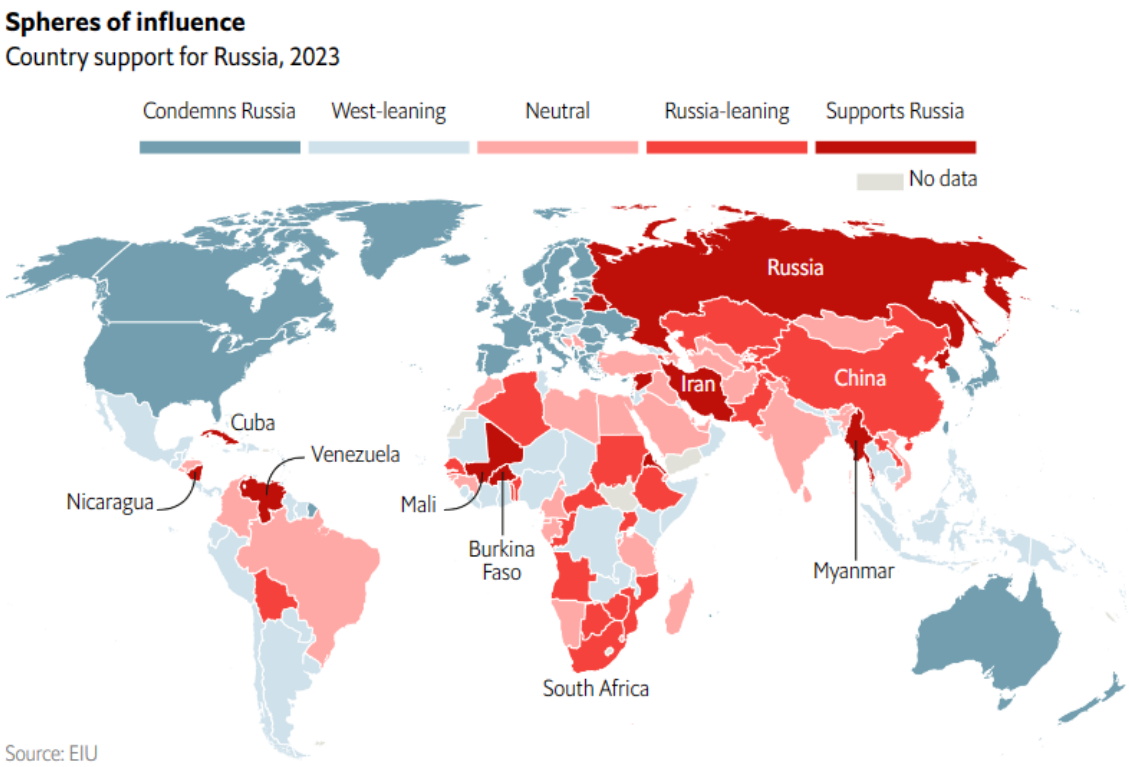


# あなたの国にとってロシアは




## ウクライナ戦争をめぐって世界は3つに分かれる

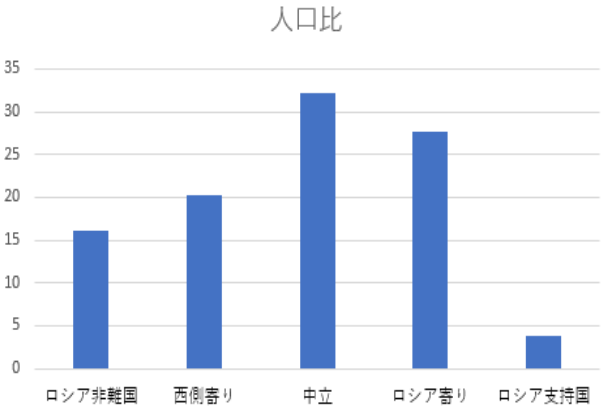
[The war in Ukraine: Russia's ruptured relations with the West - Economist Intelligence Unit (eiu.com)]

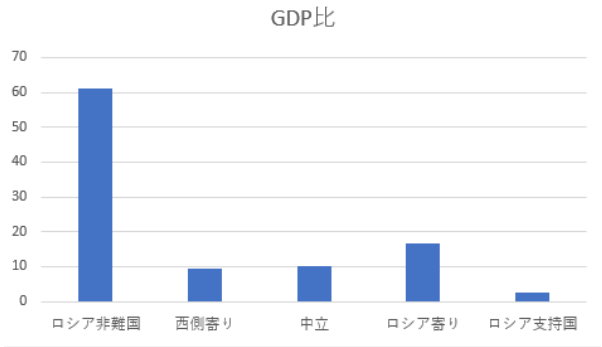


## 結果についての解析と解説

ロンドンエコノミストの調査企業「EIU」が３月 31 日に発表した、ウクライナ戦争にたいする世界各国の対応調査によると、ロシア軍による侵攻から一年後、**西側寄り、中立、ロシア寄りの国は人口比ではそれぞれ 3 分の一ずつ**で、侵攻直後の昨年３月調査と大きな変化はない。しかし 7 カ国がロシア寄り（ロシアの戦争を公然と支持しないまでも、ロシアに友好的な国）に移行している。人口比では世界の 3 分の２（図参照＝多くは AALA 地域）が西側のウクライナ支援には与みせず、中立かロシア寄りの姿勢を保っていることが示されています（GDP 比ではこれとは逆）。

| | 人口比 | GDP比 |
|---|---|---|
| ロシア非難国 | 16.1 | 61.2 |
| 西側寄り | 20.3 | 9.3 |
| 中立 | 32.1 | 10.1 |
| ロシア寄り | 27.6 | 16.8 |
| ロシア支持国 | 3.9 | 2.6 |




西側寄りからロシア寄りに変わったのはベニンとボツワナ、中立からロシア寄りに変わったのは、ボリビア、南ア、トーゴ、ウガンダ、ジンバブエの 5 カ国だった。ロシア非難から中立に変わったのは南米のコロンビア、またジプチ、ガボン、ホンジュラス、レバノン、リビア、カタール、トルコの 7 カ国が西側寄りから中立に変わった。またハンガリーとクウェートがロシア非難から西側寄りにかわった。

反対に中立から西側寄りになったのはマダガスカルのみ。バングラデシュが中立からロシア非難国になった。

全体として、ロシアを非難する国の数は、この 12 カ月で 131 カ国から 122 カ国に減少している。

この結果を報じたエコノミスト誌は、「誰がロシアを支持しているか」と題したレポートで、支持に回った国はふえたといっても影響力の小さな国ばかりで、実質的な影響はないとしながらも「非常に不可解なことで」「ロシアの外交回復力に（西側）は手を焼いている」と述べている。（以上）